

科目ナンバリング		U-LAS02 20011 LJ36							
授業科目名 <英訳>		日本語学文献講読論I Reading in the Document of Japanese Philology I				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐野 宏	
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	芸術・文学・言語(各論)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）		
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	火4		配当学年	2回生以上	対象学生	全学向
（総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）									
【授業の概要・目的】									
古代日本語の表記史について概説する。とくに仮名の成立について、万葉仮名から平仮名、片仮名の形成といった仮名発達史についての問題を取り上げて解説をする。									
【到達目標】									
日本語表記史に関する基礎的な用語や問題点について、関連事項や関連作品とともに説明できること。									
【授業計画と内容】									
1 日本語史の中の表記史の位置付けについて（導入：1回） 2 平仮名の成立以前（2回） 3 文字環境としての漢字文献（2回） 4 「訓字」とは何か（2回） 5 倭文体と変体漢文表記体の関係について（2回） 6 漢文体と駢儷文表記体の関係について（2回） 7 平仮名の成立（字体としての楷書と草書）（2回） 8 まとめ 9 フィードバック									
フィードバックを含め全15回の講義を予定している。2回とあるのは前半と後半という区分であって、主として前半は当該項目の先行研究を、後半はその問題点と解決方法についての解説になる。使用テキスト上での区分としては、第一部から第二部111頁までを予定している。14回目にレポート試験を課す。レポートの課題は10回目には通知する。									
【履修要件】									
日本語史についての基礎知識が必要になるので、言学、を受講していることが望ましい。									
【成績評価の方法・観点】									
基礎的な事項の確認試験を行う（60％）。時折、講義中に小テストを行うほか、授業への積極的な参加度（40％）を総合的に加味して評価する。									
【教科書】									
内田賢徳・乾善彦『万葉仮名から平仮名へ』（三省堂）ISBN:978-4-385-36167-3									

日本語学文献講読論I(2)へ続く↓↓↓

日本語学文献講読論I(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学修(予習・復習)等]

プリントを配布するので、その資料を参考文献とともに熟読しておくことを希望します。参考文献は自ら図書館等で参照してください。別途理解度を知るために小テストを行うことがありますが、事前に調査考察の課題を示しますので、準備を御願います。

[その他(オフィスアワー等)]

木曜日4限をオフィスアワーにあてる。会議等で不在の場合もあるから必ず事前に確認すること。